

発見!

牛久のお宝

問 文化芸術課(牛久シャトー内) ☎874-3121

第24回 ムラに浸透していった仏教

— ヤツノ上遺跡(ひたち野東5丁目) —



「佛」という文字が書かれた墨書土器(高さ約4cm)

仏教は6世紀に朝鮮半島を経由して日本列島にもたらされました。日本各地に国分寺が造営された8世紀中ごろを境に、仏教は民間へと普及し、ムラ単位で寺が建てられるようになります。ひたち野うしく駅の東側にあるヤツノ上遺跡では、平安時代の住居跡から、「佛」という文字が書かれた墨書土器、仏鉢、灯明皿が発見されました。灯明皿は、明かりをとすための道具で、燃料の油にひもをひたして、そこに火をつけました。仏教において、神仏に火を捧げることは重要な供養のひとつで、灯明皿が使われたと思われます。また、これらの仏教関係の遺物が出土した住居跡の近くからは、二間(約3・6m)×二間の小規模な掘立柱建物跡が見つかっており、仏堂の可能性が考えられます。このようなことから、平安時代にヤツノ上遺跡にも仏教が浸透していたと思われる。

里山の樹木

問 都市計画課
☎内線2524

第62回 ウメモドキ



①落葉前結実期の樹形：
牛久自然観察の森(平成23年11月29日撮影)
②花：新地町植栽
(平成23年6月7日撮影)

モチノキ科モチノキ属の落葉広葉樹の低木。本州、九州、全県域に分布、市内では雑木林などに自生する他、観賞用に植栽されています。葉身は楕円形で長さ2〜7cm、先は鋭く尖っています。雌雄異株。

6月ごろに新枝の葉腋に花序軸を出し、雄花では5〜20個、雌花では2〜4個の花(写真②)を集散状に咲かせます。花弁は淡紫色、雄花は長さ約2mm、雌花は約2・5mmです。果実は球形で、径約5mm、秋には枝いっぱい、赤色に熟します(写真①)。果実には4〜5個の種子を含んでいます。名前は葉や花がウメに似ているためといわれています。赤熟する実が美しく、庭木、盆栽などに利用されています。
※牛久の里山樹木ハンドブック32ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森(☎874・6600)まで。
【資料提供】NPO法人うしく里山の会
(文章：平塚芳雄、写真：①渡辺泰、②宮澤靖)

文芸さろん | 如月 |

森と水イルミネーション安らぎて
マスクしてコロナ退散豆をまく
陽が伸びて福寿草も直ぐそこに
冬の朝五位驚寂し池の淵
「鬼は外」節分の日は「福は内」
聞けぬ行事が今は懐かし
チョコレート一カケ含み眼をとじて
とけゆくまでを無心に過ごす
今年こそ始めてみたいかな書道
七十代の手習いとして

和多田さん
長沢さん
やべっち
九十九
わだちゃん
匿名希望
草葉

〈次回募集テーマは「春」〉

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など
【あて先】〒300-1292 牛久市中央3-15-1
「広報うしく文芸さろん」係 FAX:873-2512
☎kouchou@city.ushiku.ibaraki.jp
【記載事項】作品、氏名、電話番号
匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)



※掲載作品は担当課にて審査の上、決定します。投稿いただいた作品が必ず掲載されるわけではありません。

『牛久市版レットデータブック追補版 牛久における絶滅のおそれのある野生生物』
販売中 ※お求めは都市計画課まで(1,350円)